

**CASBEE-京都-建築(新築)2018年版**  
**(仮称)京都三條ホテル 新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					0.40	-	-	<b>3.0</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>3.4</b>	0.15	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.4</b>	
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40		
1.2 遮音				<b>5.0</b>	0.40	<b>4.1</b>	0.40		
1 開口部遮音性能				5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	5.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	2.0	0.20		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35	<b>2.0</b>	1.00	<b>2.0</b>	
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ソーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.5</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.5</b>	
3.1 屋光利用				<b>4.2</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30		
1 屋光率				●自然 A(全国版準用)	0.65%	5.0	0.60	5.0	0.60
2 方位別開口				●自然 B(推奨内容)	-	-	-	-	
3 屋光利用設備				●自然 B(推奨内容)	0.40	3.0	0.40	3.0	
3.2 グレア対策				<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
1 屋光制御				●自然 B(推奨内容)	1.00	2.0	1.00	3.0	
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
3.4 照明制御				<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
共用部:リモコンラース、AT、AS、人感センサーによる制御									
<b>4 空気環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.6</b>	
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質				使用建材すべてにF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				<b>2.0</b>	0.30	<b>2.3</b>	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御				5.0	1.00	-	-		
1階喫煙コーナー以外全館禁煙(外部スペースを含む)									
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>2.8</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>2.5</b>	0.40	<b>3.4</b>	1.00	<b>2.5</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	5.0	0.50		
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40		
1 広さ感・景観 (天井高)				●とも C(独自加点)	2.5m	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				●自然 D(独自基準)	-	-	-		
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-		
維持管理機能に十分に配慮した計画									
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.8</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
主要用途上位3種の、2種にC以上を採用									

2.4 信頼性					3.8	0.20			
1	空調・換気設備			節水型器具、配管系統の区分、トンチビットの計画	3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			耐震ガスA	4.0	0.20			
5	通信・情報設備			通信手段の多様化、停電時対応電話機の採用	5.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.6	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり							2.2	0.50	
1	階高のゆとり				3.0		1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比=0.11	3.0		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						0.30			3.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	旧市街地美観地区	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									3.7
LR1 エネルギー						0.40			4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				[BPI][BPIm]= 0.81	4.9	0.20			4.9
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.69	5.0	0.50			5.0
4 効率的運用					2.5	0.20			2.5
集合住宅以外の評価					2.5	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				2.0	0.50			
集合住宅の評価									
4.1	モニタリング				3.0				
4.2	運用管理体制				3.0				
LR2 資源・マテリアル						0.30			3.5
1 水資源保護					3.4	0.20			3.4
1.1 節水				節水型便器、自動水栓、泡沫水栓、節水コマ等採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.6	0.60			3.6
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	断熱材、タイル、防音マット	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	LGS工法、フリーフロアの採用	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				防水プライマー	4.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤								
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮				LCCO2排出率74%	4.0	0.33			4.0
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			公共交通機関利用推進計画の実施、管理車両駐車施設	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動								
3	悪臭								
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制								
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策及び広告物照明チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素量削減に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる